

第33回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 2000年5月30日（火）10:30～11:30

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁
原子力局
中澤審議官
原子力調査室 伊藤室長、板倉、村上、小室
立地地域対策室 墨野補佐
理化学研究所 谷畑 勇夫主任研究員
吉鋪専門委員

4. 議 題

- （1）理化学研究所における最新の研究成果—新しい魔法数（マジックナンバー）の発見—
- （2）藤家委員長代理の出張報告について
- （3）日本原燃（株）六ヶ所再処理施設の工事状況について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料1 新しい魔法数（マジックナンバー）の発見
資料2 藤家原子力委員長代理の出張報告について
資料3 日本原燃（株）六ヶ所再処理施設の工事進捗状況について
資料4 第32回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）理化学研究所における最新の研究成果—新しい魔法数（マジックナンバー）—の発見について

標記の件について、谷畑主任研究員より資料1に基づき説明があった。これに対し、

・このような研究は外国でも行われているのか。

（理化学研究所）マジックナンバーが消えることは研究されているが、新しいマジックナンバーの発見は今回が初めてである。

・様々な方々に関心を持って欲しい研究であるが、マジックナンバーが消えるという部分の説明は難解であったので、もう一工夫必要ではないか。

（理化学研究所）これからも努力していきたい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(2) 藤家原子力委員長代理の出張報告について

標記の件について、事務局より資料2に基づき説明があり、藤家委員長代理より以下の報告があった。

- ①カザフスタンについては、米国は非核化という観点から、BN-350の解体や、核実験施設の閉鎖に協力している。一方、日本は平和利用の為に原子力ということでNUPEC（（財）原子力発電技術機構）やJNC（核燃料サイクル開発機構）の研究協力及び、長崎・広島での被爆体験の関係から医療協力などに寄与している。カザフスタンで行える実験には自由度があり、日本にとって有意義。
- ②ロシアのアダムフ大臣との話の中で、日露協力の話をプーチン・森会談でまとめたいとの要求があった。

これに対し、

- ・ISTC（国際科学技術センター）においてはガス炉は一つのプロジェクトになりかかっている。他方で原子力省のアダムフ大臣が高速炉路線でガス炉に関心がないということならば、ISTCが米国に影響され過ぎるのはリスクがあるのではないか。
- （藤家委員長代理）クルチャトフ研究所はガス炉に関心があるので現段階では何とも言えない。ISTCは米国寄りの方向となっているという人もいる。これにどう対処するかは今後、ガス炉研究を実施している日本原子力研究所等との検討が必要。
- ・ロシアはインドに対して原子力発電の輸出を計画しているようだが、NSG（原子力供給国グループ）の枠組の崩壊にもつながる懸念がある。どういう状況なのか情報収集をお願いしたい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(3) 日本原燃（株）六ヶ所再処理施設の工事進捗状況について

標記の件について事務局より資料3に基づき説明があった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料3第32回原子力委員会臨時会議議事録（案）が了承された。

なお、事務局より、次回は6月2日（金）に臨時会議を10：30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。